

福祉情報を発信します

あすなろ福祉会 第2回 地域福祉懇談会を開催

あすなろの家に理事・評議員・地域福祉関係者・職員28名が一同に集まる



法人理事会は、11月17日(土)、昨年に続いてあすなろ福祉会「地域福祉懇談会」を開催し、理事・評議員・職員とともに、各施設所在地域の福祉関係者もお招きし、28名が参加しました。

今後もあすなろの家と地域の結びつきを!



冒頭、杉井理事長が次の通り開会挨拶をされました。

昨年初めての「地域福祉懇談会」では、地域の状況もご報告いただき、認識を新たにしながら情報の共有がはかられただけでなく、

地域と施設の新しい結びつきも生まれました。この流れを今後も維持したい。

▷地域とともに防災を考える

今回は、前半に施設から地域活動を報告するとともに地域の皆さんの状況をお伺いし、後半には喫緊の課題である防災について、専門家のお話を聞いて、こういう施設の防災のあり方を考える機会としたい。

福祉関係者からのご発言

お年寄りの「居場所」づくりを

飯田地区の深澤さんからは、12あるデイサービスの他に、お年寄りの「居場所」づくり

を始め、趣味や自分のやりたいことをやり、参加者同士話し合うようにしている活動が紹介されました。

同じく、安形さんからは、同様にデイサービスに来ない人も対象とした食事会を開催し、お互いの様子が分かる地域にすることが最大の狙いであると話されました。

それぞれの地域と交流を!

元法人理事長でもある小林医師からは、話を聞いて「ここの地区がうらやましい」と話され、先生が勤める診療所を中心とした医療と介護、サロン活動が紹介され、それぞれのやり方があるので、今後交流することが提案されました。

福祉問題を一緒に考えたい

あすなろのケアハウスに住まわれ、評議員もされている政治学者の畑田さんは、認知症を患った奥様を介護した大変な苦勞を語り、今後福祉問題について一緒に考えたいと述べられました。

次ページに続く：3施設報告

前ページから続き： **あすなろ三施設からの報告**

あすなろの家の多彩な地域活動を紹介

まず、千葉施設長より、地域との結びつきに
しぼって、地域で大変重要なS型デイサービス
へのお手伝いとしてミニ講演会・介護技術
の研修、イベント会場での介護相談、認知症カ
フェ、ファミマでの介護相談、ボランティアさ
んとの交流などとともに、山原山の清掃に参
加したり、職員の子どもの職場体験や誰
でも施設を見学できる「参観会」の開催などの
取り組みが紹介されました。

風の子は40周年、子育て支援事業も

大滝園長より、開設40周年を迎え、盛大に
記念事業を開催、そういう中で、地域の方も招
待した敬老会、保育体験、お母さんの出産時な
どの一時預かり保育、子どもの育ち相談など
の活動が紹介されました。

ともの家：障がい者施設の地域活動とは？ 困難を抱えた子どもの居場所づくりに協力

滝戸施設長からは、障がい者施設の地域活
動は、障がい者の願いや思いを地域に届ける
こと。「私たち普通に働けるんだよ、ネーネー
見て見て」と。そして今恩返しとして、困難を
抱えた子どもの居場所づくりに協力。おやつ
やパンを届け、困ったときに「ネッネッおばさ
ん、僕食べるものがないんだけど」と足を運ん
でくれることを願って。

地域福祉懇談会第二部

防災研修

- ・実際の災害のイメージ化
- ・リスクの確認

講師 **渡嘉敷 唯之 氏**

出身 沖縄県
仕事 元福祉職(重心・高齢)
資格 主任ケアマネ・介護福
祉士・防災士



最近、地震だけでなく台風の甚大な被害が
報道され、身近な問題として防災に取り組む
ことが迫られています。そこで、今回の懇談会
を地域と一緒に防災を考える機会としました。

講師は、元福祉職従事者で、施設の防災指導
をする傍ら被災地支援に取り組んでいる渡嘉
敷氏にお願いしました。

短時間であることから、写真を見ながら実
際の災害をイメージ化し、各施設のリスクの
確認にしぼっての話をされました。

冒頭強調されたのは、地域で助け合うこと
で命が助かったこと、崩壊した家から住人を
助けるにも、どこに寝ているか、普段どこに
いるかの情報を近隣住民から得ることで救命の
可能性が上がることでした。

実際の災害として、津波、火災、液状化、土
砂災害、浸水害についての危険性と直接の被
害でなくとも生活に大きな影響を与えること
が紹介され、県のハザードマップから各施設
のリスクが具体的に指摘されました。



あすなろの家：子どもたちが職場体験

「夏休み！あすなろの家に来てみよう」

あすなろの家では、親の仕事をする姿を
見てもらいたいという思いから、夏休みの
職場体験を始めて、今年で5年目になりま
した。今年は夏休み中に6回、小学生7名
が参加しました。親と一緒に出勤し、一日
あすなろの家で過ごしました。

特養のお年寄りとのふれあいを始め、車
椅子の清掃、厨房の方の指導で料理教室、
ケアハウスの方の指導でちぎり絵やでんで

ん体操等を体験。もちろん宿題もやりまし
た。子どもたちは、学校以外の友達と一
緒に活動する事が楽しい。ケアハウスの
105才のおばあちゃんと会えるのが楽
しみ。参加した子どもたちか
らは、来年もまた参加したい
という感想が多くありました。

将来あすなろの家を担う人材
が育つかもかもしれませんね。



社会保障政策と国民負担を考える

法人本部HP「つぶやき」(杉井理事長)を紹介します



法人HPは「清水あすなる福祉会」で検索ください。各施設のHPともリンクしています。

社会保障制度の

「制度改革」は止むを得ないか？

これまで社会保障制度の動向について、●「国の予算と社会保障について」●「社会保障制度改悪を許すな」で一般的に解説しましたが、今回HPでその中身を説明しています。

巨額な財政赤字、人口減少と急速な高齢化社会を迎えて、社会保障制度の「制度改革」は止むを得ないとする考え方もありますが、まずはその中身は何なのか?、「それでいいのか?」を考える内容となっています。

その中身は?・・・医療と介護に負担増と保険はずしがズラリ

医療・介護では、さまざまなメニューで公的保険はずしと、利用者負担を引き上げる計画です。例えば新たに、○かかりつけ医以外を受診した際の追加負担、○市売品類似医薬品の保険はずし、介護では○軽度者の生活援助を原則自己負担に、○要介護1・2の通所介護も地域支援事業に・・・などなど。

年金は実質的な支給額の引き下げをはじめ、支給年齢の引き上げなどが計画されています。

最後のセーフティネットである生活保護も生活扶助を5%下げたり、医療扶助の見直しが進められています。

国の言うことは本当か？

国は「制度改革」の必要性を、○将来世代への負担で賄われる社会保障費用の見直し、○社会の変化に対応し、社会保障制度を守り、深化させ受け継ぐため、などと説明しています。

国の説明は本当なのでしょう。

又そのなかで「全世代に受益感のある社会保障制度」をうたっていますが、それは何を意味するのでしょうか。本来社会保障はセーフティネットで、全国民に公平に分け与える性質のものではありません。損・得で世代間の不公平感をあおろうとする作為を感じます。

「将来世代への負担の先送りを抑制」は必要ではありませんが・・・

赤字国債残高が16年9月末で1062兆円とされ、税収で計算すれば18年分に相当するとか。財政法では「税収の範囲内で歳出しなければならない」と規定しているにもかかわらず、景気刺激のために毎年赤字国債依存の財政運営を行ってきた結果です。

そうした過去を棚上げにして、社会保障に責任を押しつけるのは問題のすり替えに他なりません。「大砲かバターか」ではありませんが、予算全体の使い道についての国民的合意が必要ではないでしょうか。

その他、疑問や問題が山積み

- 「社会の変化に対応し、社会保障制度を守り、進化させ受け継ぐ」といいますが・・・
- 「子ども子育て支援の充実」といいますが…
- 医療・介護サービス保障の強化と社会保障制度のセーフティネット機能の強化は
- 「分厚い中間層の復活」は可能か？
- 生活保護費の引き下げが意味するもの
- 国民負担は国際的にみて日本は低いのか？
- 企業への課税は高すぎるか？

(※HPでは、上記各項目について説明有)

私たちにできること

あすなる福祉会は理念の一つとして地域福祉の充実を掲げ、法人傘下の施設運営さえ順調にいけばよいという立場はとっていません。



それでも、このままで推移するとどうすることもできない状況になるのではないかとこのことを危惧しています。

詳しくは法人HP「つぶやき」参照下さい

ともの家 秋のイベントに出店

ドリプラパンまつり・お店のマルシェ・清水区岡まつり・船越まつり

働く仲間の姿に触れていただき、 「パンと焼き菓子のお店tomo」の宣伝に

当初は運営費稼ぎ

秋は、各地域でイベントが多く開催されます。「ともの家」も開所当時は、運営費を稼ぎ出すために、保護者に手伝ってもらいながら、日曜日のたびに地域のバザーや祭りに出店していました。

それだけでなく……

しかし、保護者の高齢化や人手がない中での出店に、職員の休日労働が負担となってきたため、ここ数年は近隣の地域のイベントに限定して出店しています。運営費確保のための出店と同時に、障がいのある仲間たちの存在、働く担い手として社会で活躍している姿に触れていただくこと、そして、2年前に開店した「パンと焼き菓子のお



船越まつりにて

店 tomo」に多くのお客様が足を運んでいただけるよう、宣伝させていただいています。

どこかで見かけたら、ぜひ、声をかけてください。

ともの家・30周年記念行事

「ねがいよ、とどけ！ かがやく、あしたへ」

日時 平成31年1月12日(土) 10時半～14時半

場所 エスパルスドリームプラザ 1階ホール

ステージ

- 記念Tシャツお披露目 ファッションショー
- 仲間の歌 ○ミニコンサート
- 「港かっぱれ」他 (かっぱれ振興会のみなさま)
- シズラと遊ぼう ○ミニコンサート

その他

作業所の商品販売・フェアトレード商品の販売

※参加は自由、無料ですので当日おいでください
お問合せ：054-352-1197 (ともの家)

作業所の主人公は、そこで働く障がいのある仲間たちです。

30年の節目に、改めて

“仲間のねがいに耳を傾け、彼らが主体性をもって働き暮らすこと”

「ともの家」の存在意味について再確認します。

理事会編集部より

本たよりは3ヶ月毎に発行し、すでに3年が経過しました。福祉情報を発信することとしていますが、その責務を果たすに毎回苦勞しています。

各施設の工夫やイベントなども合わせて紹介するようにしてきました。ぜひ、ご意見を寄せていただければ幸いです。